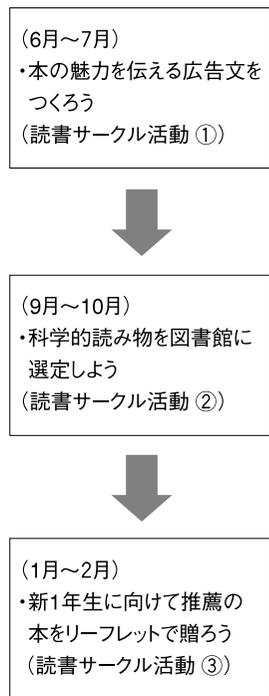


社会生活に生きる

「読解力」の育成に向けて 後

福岡教育大学附属福岡中学校
 武田 祐子
たけだ ゆうこ



1 「読解力」を意識した読書サークル活動

前号では、単元「本の魅力を伝える広告文をつくらう」の第一次・第二次を紹介した。読解スキル・コミュニケーションスキルを活用して、書籍の選択や評価の基準など、読解の基礎となる視点を生徒自らが習得することをねらいとした。

今回示す第三次では、読書サークル活動を設定した。読書サークル活動とは、共通のテキストを五人のメンバーで役割分担し、視点や課題を明らかにしながら、読みを深めるものである。「読書サークルの利点」

- 共通のテーマや課題に、それぞれの役割と立ち位置をもって取り組むことにより、多様な意見が生まれる。
- 個人の中で収束していた読みが、目的や相手を意識した自己表現へとつながる読解となる。

そのために重要なのが、スキルアップのための年間計画(資料1)である。これをもとに、単元全体の構想を立てるのである。

2 読書サークル活動の実際 (第三次)

ここでは、星新一のショートショートをテキストとして用いて、活動を設定した。なお、読書サークル活動での五人の役割分担は、次のように示した。

- ① 話題提供者……… デイスカッションで読み解くべき話題を提示する。
- ② 進行役……… 話題提供者の意図をくみ取り、全員が快く意見を出せるような方向づけを行う。セールスマンの視点で吟味する。
- ③ セールスマン……… 「売れる」ための表現になっているか、セールスマンの視点で吟味する。
- ④ 批評家……… 同じ作家の別の作品や、同じテーマの別の作品を提示するなど、全体を俯瞰した意見を出す。
- ⑤ 言葉担当……… 読み解く手がかりとなる作品の中の言葉などを提示し、各係の意見を補充、裏つける。

(1) ショートショートを選定

まず、読書サークル活動のイメージをもたせるために、既習の『大人になれなかった弟たちに……』(一年)を使った、モデル読書サークルのVTRを視聴させた。ここでは、広告文を作成する手順や方向性、話し合いのしかたをVTRで学ばせた。その上で、ショートショート集『ポッコちゃん』(新潮文庫)の中から、ポスター、帯、POPなど、どんなものを作成したいか、どんな読み手に何をアピールしたいのかを確認した上で、役割を決めて読み進めるように指示した。

(2) ショートショート分析

読書サークルでは、役割分担シートやデイスカッションの記録となる日誌、学びの蓄積であるポートフォリオの用い方が重要なカギを握る。必要に応じて、適宜説明を行った。

「読書サークルを行う上でのポイント」

- 読解スキルとコミュニケーションスキルの学習を連動させながら、読書サークル活動を繰り返し行うこと。
- 日誌によって、読書サークルの成長や問題状況を生徒自身が把握すること。また、教師は日誌によって、次に取り出して学習させなければならない読解スキルやコミュニケーションスキルを発見すること。
- 生徒にポートフォリオ形式にしたワークシート集でのスキルを蓄積させることで、次の読書サークルで獲得したスキルを自分で使いこなす手がかりを残すこと。
- 読書サークルの前に、各自が役割分担シートをあらかじめ書き込む時間を取り、一人でじっくり本と向き合う時間

を確保すること(この間、教師は生徒の能力の差に応じた指導を行うことができる)。

ここでは、目的と相手を「科学の進んだ現代に住む人間たち」と設定し、ショートショート『最後の地球人』の魅力を、「帯広告」で紹介した事例を挙げる。生徒たちは選定したショートショートを、各自の役割分担シートに記入した。(資料2) また、読書サークルでの事前準備として、気づいた表現やそこから読み取れるものを、役割分担シートに予想して記入した。

【資料2】役割分担シート(言葉担当)の記述

① どういったところが帯広告に生かせそうか。

- ・ 今、起こっている事件と、この物語を照らし合わせてみたらいい。核とか戦争とか自己中心的なところがある。そこに絞れば、大人の心をつかめる!
- ・ 昔と今の科学の進歩を物語の表現から照らし合わせる。人や時代が変わっても変わらないものをアピールする。

資料3(P20)は、読書サークルでのデイスカッションの様子である。話題提供者の『「非現実な話」の魅力はどうしたら伝えられるのか』という提案について、各自がそれぞれの立場で主張している。これらの発言を深める基礎となったのは、スキルアップメニュー「関係づけて意識をつくらう」や「文体の特長から効果を見抜こう」での学びを生かして、行動や心情の表現から登場人物の性格を「ジコチュー」と分析したり、文体の特長の中での「比喩表現」に気づいたからだと考ええる。(前号P25参照)

また、ポर्टフォリオ形式のワークシートをかたわらに置き、必要ときに即座に情報が引き出せるようにさせた。このように、ショートショートのもつ雰囲気大切にしながら、限られた分量の中で、よりインパクトのある帯広告にするためのディスカッションが行われた。具体的には、いかにして現実的かつ自己中心的な現代人を非現実的なショートショートの世界に誘い込むか、ショートショートを書いた作者のメッセージを読み取らせるかなど、広告文の完成に向けて、生徒たちのディスカッションは続いた。

「『非現実な話』の魅力はどうしたら伝えられるのか」について

話題提供：非現実な話だよな!? その面白さを現代の冷めた人たちに気づかせるのは難しい…。

進行役：「言葉担当」さん。なにか意見がある? はじめと最後のギャップについて語ってたよね。

言葉担当：「便利さに埋もれている」という表現が多い。登場人物はジコチューなのに「機械に使われている」、そこをアピールすれば、今の現代人や大人の心がつかみやすい。

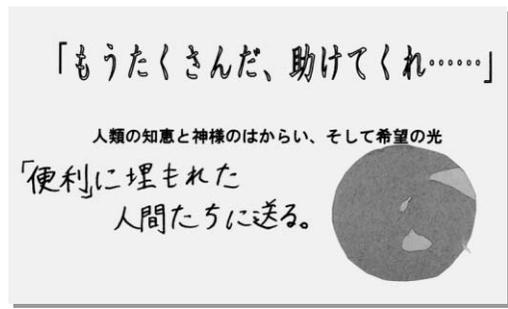
セールス：そうね。わたしもはじめは、非現実的にとらえがちだったけど、今の地球に重ねた比喻表現もあるので、そこを尊重すべきだと思う。

批評家：非現実なところは、少しでも現実的なものになるように、普段の生活と結びつけた方がいい。また、人類の心の変貌についてもっとわかりやすい解説があるといいと思う。

【資料3】読書サークルでのディスカッションの様子

シヨンの焦点となった「便利に埋もれた人間」を「科学の進んだ現代に住む人間たち」と重ねてうまく表現し、目的・相手を意識した広告文として仕上げている。

単元の学習を終えて、生徒たちからの感想を集めたが、魅力ある言葉として広告文を制作しようという意識や、単元を通じての意欲・関心の高さが感じられた。(資料5)



【資料4】読書サークルを生かした帯広告

3 成果と展望

課題解決のために、読解スキルとコミュニケーションスキルという二つのスキルを設定したことは、テキストを読み解き、ディスカッションを生かして作品を読み進め、考えをまとめることにつながった。また、ショートショートで二つのスキルを活用し、広告文を制作したことで、生徒自身が「このスキルはこれからも使えそうだな」「ほかにどんなスキルがあるのだろう」と考えるようになった。

さらに、実の場で生きる広告を制作することによって、自らが学んだスキルを社会生活の中で活用する必然性を、生徒自身が感じ取ることができたのではないだろうか。

現在、生徒たちは、読書サークル活動②「科学的読み物を図書

「ディスカッションを豊かにするための教師の支援」

○ディスカッションの話し合いが活性化しないときの手だてとして、教室内に読書サークルのモデルVTRを設置し、いつでも視聴できるようにしておく。

○問題点が生じたときは、必ず教師に知らせることを約束事として決めておく。これは、自由な雰囲気の中にも読書サークルでの話題や役割を明確にさせ、進もうとする方向や方法について自分たちでメタ認知できるようにするためである。

(3) 広告文をつくる

各サークルで十分なディスカッションを行った後、生徒たちは、広告文の制作に取りかかった。レイアウトや装丁のしかたについては、実際の書店の例を参考にしながら制作を進めていった。また、それぞれの完成のイメージや予想図をホワイトボードにマーカーで記したり、アイデアや意見の調整には色付箋紙を使うなど、あくまでもサークル全員で話し合い、作り上げるという意識で取り組む姿勢が見られた。回数を重ねることに、ディスカッションスキルとしての「フォローアップの質問をしよう」「快い反論をしよう」などのことが自然な形で進められるようになった。これは読書サークル全体の質を高める上で、個人のコミュニケーション能力の育成の上でも、大きな進歩であったと考える。そして、できあがった広告(帯広告)が資料4である。

表紙には、機械社会に支配される登場人物の「もうたくさんだ、助けてくれ……」を、またS女のグループでディスカッションに選定しよう」を終え、卒業制作として読書サークル活動③「新一年生に向けて推薦の本をリーフレットで贈ろう」に取り組みうとしていく。これからも、生徒とともに、社会生活に生きる「読解力」を旨とした学習を進めていきたい。

広告文を作るのに、特に印象に残っていることは、読解スキルアップから、コミュニケーションスキルアップがとても生かされているということです。

わたしたちの班は、「落ち」の効果を利用すること、関連づけて考えることを利用しながら、吊り広告に載せるためのインパクトのある言葉、魅力ある文章を考えていきました。班で、意見が食い違ってしまうこともあったけれど、それによって、新しい言葉、文章が考え出され、班員全員が納得できるものになりました。また、言葉の大切さ、言葉の効果を学ぶことができましたし、言葉は生きている、と感じられました。

【資料5】単元の学習を終えての生徒の感想